

水戸市行政評価委員会

(第4回)

平成30年10月12日(金)
午前9時
本庁舎南側臨時庁舎中会議室

1 次第

- (1) 開会
- (2) 審議
- (3) 答申
- (4) 閉会

2 資料

- (1) 答申書

平成30年度行政評価に係る答申書

平成 30 年 10 月
水戸市行政評価委員会

目 次

1	評価の経過	1
2	評価結果の総括	2
3	各事務事業に対する評価	7
4	評価を終えての意見	19
5	委員名簿	19

1 評価の経過

行政評価委員会（以下「委員会」という。）は、平成30年8月7日に第1回の委員会を開催し、「公の施設の利用状況」をテーマとした1年目評価5事務事業、「イベント」をテーマとした2年目評価4事務事業及び3年目評価3事務事業並びに「公の施設の管理・運営に係る事務（直営施設）」をテーマとした6年目評価1事務事業及び7年目評価2事務事業の評価を行うことについて、高橋市長から諮問を受けた。

委員会は、事務事業を所管する各部推進会議が実施した1次評価（内部評価）に対して、外部からの客観的な視点を持って2次評価（外部評価）を行うという非常に重要な役割を担うものであるため、事務事業について、内容の十分な把握と慎重な審議を求められているものである。

特に、新規評価の審議に当たっては、各委員が1事務事業を受け持ち、評価案を作成することとし、その評価案を基に、審議を行うこととした。

なお、評価案の作成に当たっては、担当課によって作成された1次評価（内部評価）の調書に基づき、担当課の考え方や事務事業の詳細な把握に努め、また、必要に応じて、担当課へのヒアリング及び現地確認を実施し、事務事業について確認を行ったところである。

その後、第2回の委員会を8月28日に、第3回の委員会を8月29日に開催した。

第2回及び第3回の委員会では、昨年度の総合評価で「見直しの上で継続」とされた2年目評価4事務事業並びに「評価継続」とされた3年目評価3事務事業、6年目評価1事務事業及び7年目評価2事務事業の評価を対象に、各部推進会議において設定した改善目標と、その目標に対する改善状況について、担当課から説明を受け、改善の内容や考え方の確認を行った上で、委員会としての結論を出した。

また、第3回の委員会では、1年目評価5事務事業の評価について、各委員が作成した評価案に基づき、事務事業ごとに慎重な審議を行った。審議には、事務事業の担当課にも出席を求め、必要に応じて事務の内容や考え方の確認をしながら、委員会としての結論を出した。

2 評価結果の総括

(1) 新規評価

新規評価については、5事務事業のうち、3事務事業を「現状のまま継続」、2事務事業を「見直しの上で継続」とした。

表1 評価の概要（1年目評価）

事務事業名	内部評価 (1次評価)	行政評価委員会の評価 (2次評価)
1 自転車駐車場	現状のまま継続	現状のまま継続
2 青柳公園	現状のまま継続	見直しの上で継続 (手段を改善する)
3 福祉ボランティア会館	現状のまま継続	現状のまま継続
4 障害者教養文化体育施設	現状のまま継続	見直しの上で継続 (手段を改善する)
5 子育て支援・多世代交流センター	現状のまま継続	現状のまま継続

今回の行政評価において対象となった公の施設の利用状況5事務事業については、利用者数の増加に向けた取組についてはおおむね評価できるものであった。

しかしながら、青柳公園は、一般市民に向けた施設の存在、施設の機能、予約方法、料金等の周知の強化及び利用状況の詳細な把握のほか、稼働率の考え方の整理が必要なことから、「見直しの上で継続（手段を改善する）」とした。

障害者教養体育文化施設は、利用者減少の原因の特定、施設の存在の更なる周知及び利用者数の増加に向けた取組の強化を図るとともに、施設・設備の老朽化に対応するための改修方針の作成が必要なことから、「見直しの上で継続（手段を改善する）」とした。

（２）継続評価

継続評価については、昨年度の総合評価において、「見直しの上で継続」とされた２年目評価４事務事業について、「評価終了（※１）」とした。

３年目評価は、昨年度の総合評価において、「評価継続」とされた３事務事業について、「評価継続（※２）」とした。

６年目評価は、昨年度の総合評価において、「評価継続」とされた１事務事業について、「評価継続」とした。

７年目評価は、昨年度の総合評価において、「評価継続」とされた２事務事業について、「評価終了」とした。

※１ 評価終了・・・改善目標が達成され、改善状況が確認できたことから、評価終了とする。

※２ 評価継続・・・改善目標が達成されないなど、改善状況が確認できないことから、次年度も評価を継続する。

ア ２年目評価

表２ 評価の概要

事務事業名	行政評価委員会の評価 (２次評価)
１ ヒューマンライフシンポジウム	評価終了
２ 芸術文化活性化事業	評価終了
３ 市場活性化事業	評価終了
４ チャレンジ・ザ・原始人事業	評価終了

※評価終了に網掛けをしている。

2年目評価については、全ての事務事業において、改善が達成されたと評価できる。

ヒューマンライフシンポジウム事業は、趣旨に即したテーマ設定や講師の選定及びSNSやQRコードの活用による若い世代への周知を図るとともに、業務委託先の担い手の育成に向け、若い世代の団体との連携を行ったことに加え、写真展の具体的なテーマ設定をしたことから、今年度で評価終了とした。

芸術文化活性化事業は、今年度に事業を休止し、あり方の検証を進めていく中で、事業の廃止に向けた協議を実行委員会と進めることとしたことから、今年度で評価を終了した。

市場活性化事業は、客観的な来場者数の測定方法の導入に加え、アンケートの導入による売上金額等の把握を行ったことから、今年度で評価終了とした。

チャレンジ・ザ・原始人事業は、安全面に配慮した活動内容の見直しを行ったことに加え、NPO法人に業務委託するとともに、指導者を対象とした事前研修を行い、専門性を持った指導者の育成に取り組んだことから、今年度で評価終了とした。

イ 3年目評価

表3 評価の概要

事務事業名	行政評価委員会の評価 (2次評価)
1 農業祭	評価継続
2 商業祭	評価継続
3 水戸黄門まつり	評価継続

3年目評価の対象である農業祭、商業祭及び水戸黄門まつりについては、改善に向けた取組に着手しているものの、改善が達成されたとは言えないため、今後も速やかな改善に向け、取組の推進を求めることとし、評価継続とした。

ウ 6年目評価

表4 評価の概要

事務事業名	行政評価委員会の評価 (2次評価)
1 斎場管理運営事務	評価継続

6年目評価の対象である斎場管理運営事務については、改善に向けた取組に着手しているものの、改善が達成されたとは言えないため、今後も速やかな改善に向け、取組の推進を求めることとし、評価継続とした。

エ 7年目評価

表5 評価の概要

事務事業名	行政評価委員会の評価 (2次評価)
1 保育所管理運営事務	評価終了
2 幼稚園管理運営事務	評価終了

※評価終了に網掛けをしている。

7年目評価については、全ての事務事業において、改善が達成されたと評

価できる。

保育所管理運営事務については、水戸市立幼稚園・保育所あり方検討会からの提言を踏まえ、適正規模・適正配置について検討を行い、保育所2か所の認定こども園化に向けた調整を進めていることから、今年度で評価終了とした。

幼稚園管理運営事務については、水戸市立幼稚園・保育所あり方検討会からの提言を踏まえ、適正規模・適正配置について検討を行い、幼稚園2園の認定こども園化に向けた調整を進めていることから、今年度で評価終了とした。

3 各事務事業に対する評価

各事務事業に対する評価については、以下のとおりである。

(1) 新規評価（1年目評価）

公の施設については、平成24年度及び25年度の行政評価において、管理・運営における民間活力活用を主題として評価を行った。

一方で、公の施設の利用者数の状況については、担当課における検討にとどまり、これまで評価の対象としてこなかった経緯がある。施設の稼働率の向上は、現在整備中の新市民会館や東町運動公園をはじめ、全ての公の施設で課題である。

そこで、平成30年度の行政評価は、公の施設の利用者数の増加に向けた取組が適切に実施されているかという視点から、「公の施設の利用状況」をテーマとし、外部評価を行った。評価対象となった施設については、おおむね適正な取組がなされていたところであるが、一部改善が必要なものがあつた。

① 自転車等駐車場の利用状況

自転車等駐車場は、自転車等利用者の利便を高めるとともに、歩行者の安全性を確保し、市民の良好な生活環境を保持することを目的として市内6か所に設置されており、指定管理者によって管理されている施設である。

当該施設の稼働率については、近年75パーセント以上（6施設全体）で推移しているほか、施設の利用者アンケートの結果も50パーセント以上が施設の使いやすさに満足しており、利用者の評価も良好である。

また、当該施設は、使用料等審議会の答申に基づき、昨年度に料金の値下げを実施し、利用者にとって適切な料金設定に見直しを行っている。指定管理者においては、更なる駐車場の利便性向上に向けて、定期利用と一般利用の

間の駐車区分の弾力的運用や各駐車場の間での空きスペースの融通のほか、パンク修理等の有人駐車場ならではのサービスも実施している。さらに、SNS等での周知活動のほか、違法駐車者への対策も適切に実施されている。

このようなことから、1次評価の「現状のまま継続」は妥当である。

なお、水戸駅における最終電車の時間を踏まえた営業時間の延長及び更なる料金の値下げの可能性については、今後も引き続き検討が必要である。また、駐車場が地下にあるという構造上の問題については、将来的な課題として検討すべきである。

② 青柳公園の利用状況

青柳公園は、全ての人々が、スポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える活動に参画することのできる機会を確保することを目的として設置されており、指定管理者によって管理されている施設である。

施設の利用者アンケートにおいては、再利用の意向が90パーセント近い結果となっており、利用者の評価も良好である。インターネットの予約システムも整備され、エアコン、洗面所等の設備面も改善されており、利用者の利便性向上に向けた取組として評価できる。

しかしながら、夜間に比べて昼間の利用が少ないほか、今後、東町体育館の完成に伴う、利用者数の減少も懸念される。

そのため、大会等だけでなく、個人での利用も可能なことや、施設の存在、施設の機能（会議室も含む。）、予約方法、料金等の周知を強化し、利用者の拡大に努めるべきである。

また、昨年度は、メインアリーナの空調設備等の大規模な施設整備も実施されており、その後の利用状況の分析も必要である。さらに、1次評価においては、体育館の稼働状況を利用者数をもとに把握しているが、他の評価対

象施設と同様、アリーナの専有状況をもとに把握するなど、稼働率の考え方を整理するとともに、メインアリーナとサブアリーナの稼働実績の管理をそれぞれで行うべきである。

このようなことから、更なる改善を進めていく必要があるため、1次評価の「現状のまま継続」ではなく、「見直しの上で継続（手段を改善する）」とする。

③ 福祉ボランティア会館の利用状況

福祉ボランティア会館は、福祉ボランティアの活動の場を提供するとともに、その活動を支援することを目的として設置されており、指定管理者によって管理されている施設である。

当該施設は、利用日数ベースでは、各室とも、80パーセントを越える（調理室のみ60パーセント台）利用があるが、午前、午後、夜間の区分ベースでは、研修室が60パーセント台前半、実技室が40パーセント台前半、ボランティア室が50パーセント程度に留まる。これは、夜間の利用がかなり減少していることが考えられることから、利用者数の維持・増加に向けて工夫をする必要がある。

このような課題はあるものの、施設の目的に沿った適切な利用がなされている。施設の利用者アンケートにおいても、再利用の意向が年々上昇する結果となっており、利用者の評価も良好である。

そのため、1次評価の「現状のまま継続」は妥当である。

なお、目的外利用（有料施設）の貸出が、一貫して減少していることから、施設の周知に努めるとともに、駐車場利用代金の負担軽減など一定の促進策を検討すべきである。

また、利用団体の固定化や、夜間の利用及び目的外利用の減少状況を踏ま

え、ボランティア団体の育成支援による夜間のボランティア室の利用促進や、各種団体・企業への利用促進を図る等の工夫に取り組むべきである。

④ 障害者教養文化体育施設の利用状況

障害者教養文化体育施設は、障害者の福祉の増進を図るため、機能回復向上・健康の増進・コミュニケーション及び教養文化等に寄与することを目的として設置されており、指定管理者によって管理されている施設である。

当該施設は、施設の利用者アンケートにおいて、再利用の意向が増加しており、利用者の評価も良好である。また、施設の提供のみならず、講座開催やクラブ運営を行うなどの工夫もなされているほか、近隣の市町村にない、障害者が優先して利用できる体育施設という強みを生かした運営が行われており、評価できる。

一方で、平成24年以降、利用者数が減少傾向にあるため、原因を特定すべきである。

また、施設の老朽化が進んでおり、設備（空調、トイレ回り、通信・映像設備等）の更新も必要なことから、利用者のニーズを踏まえ、優先順位を明確にした施設・設備の改修方針を策定すべきである。

さらに、広報については、現在、ホームページをリニューアル中であるが、施設の希少性を生かして、市内外に広く広報を行うなどの周知の強化も検討すべきである。

このようなことから、更なる改善を進めていく必要があるため、1次評価の「現状のまま継続」ではなく、「見直しの上で継続（手段を改善する）」とする。

⑤ 子育て支援・多世代交流センターの利用状況

子育て支援・多世代交流センターは、地域における子育て支援を積極的に推進するとともに、子どもから高齢者までが交流する多世代交流拠点形成を図ることを目的として設置されており、指定管理者によって管理されている施設である。

当該施設の稼働率については、ひたちなか市に類似の施設が設置され、市外利用者が減少したものの、その分を除くと一定数で推移している。

また、当該施設は、0歳から高齢者までの多世代が安心して集うことができるまちなかの施設であり、魅力的で多彩な事業も実施されている。特に、子世代には、イベントなどを通じた情操教育の場となっており、豊かな心が育まれる場ともなっている。さらに、子育て世代には、預かり保育や悩み相談の場が設けられ、様々な講座を通して多世代交流もできる心強い施設である。そして、高齢者にとっても、子育て支援や講座を通して、生きがいつくりにつながっている。施設の利用者アンケートにおいても、再利用の意向が増加しており、利用者の評価は良好である。

このようなことから、「現状のまま継続」は妥当である。

なお、更なる稼働率の向上に向けては、英会話教室など、多世代の参加が期待できる事業を増やすべきである。

また、広報については、ツイッターには子育て支援・多世代交流センター専用のアカウントがなく、水戸市のアカウントを活用して広報を行っているが、若い世代を中心に効果的な広報ができるよう、専用のアカウントを開設するべきである。

(2) 継続評価

ア 2年目評価

① ヒューマンライフシンポジウム

ヒューマンライフシンポジウムは、昨年度の評価を受け、男女平等参画の趣旨及び講演テーマの新しさに留意したテーマ設定及び講演者の選定、若い世代に向けたイベントの周知及び募集方法の検討、事業委託先のNPO法人の担い手の育成並びに写真展の具体的なテーマ設定を改善目標として掲げているところである。

テーマ設定及び講演者の選定については、今年度、北京オリンピックフェンシング銀メダリストである太田雄貴氏を講演者とし、スポーツ界における女性活躍の現状等について講演を行うこととした。また、周知については、若い世代の参加を促すため、SNSを活用したほか、広報誌及びチラシにQRコードを添付し、申込方法の利便性を向上させた。

NPO法人の担い手の育成については、水戸市男女平等参画センターの登録団体の中でも若い世代の団体と連携したほか、周知及び運営に大学生ボランティアが参加できる体制づくりを行った。

写真展については、具体的な作品テーマの設定を行い、参加者からも好評を得た。

このようなことから、改善目標は達成されていると判断し、評価は今年度で終了とする。

② 芸術文化活性化事業

芸術文化活性化事業は、昨年度の評価を受け、平成30年度は事業を休止し、総合評価を踏まえながら事業のあり方を検証していくことを改善目標として掲げているところである。

現在、当該事業を休止し、事業のあり方を検証しているが、担当課では、昨年度の総合評価における指摘事項である財源の確保、イベントコンセプトの明確化や指定管理者である水戸芸術振興財団の自主事業との住み分けの明確化及び民間事業にはない付加価値の検討といった諸課題への対応は困難であるといった結論となった。そのため、事業の廃止に向けた協議を実行委員会と進めることとしたことから、評価は今年度で終了する。

③ 市場活性化事業

市場活性化事業は、昨年度の評価を受け、客観的な来場者数の測定方法の検討、広告や広報の効果と各イベントの売上金額の把握、更なる来場者数の増加に向けた事業の創意工夫、小・中学生の社会科教育の中でのイベントの活用の検討について、実施主体である市場協力会に提案し、協議することを目標として掲げているところである。

客観的な来場者数の測定方法については、観光入込客統計に関する共通基準（観光庁）を用い、来場者数の推計を開始した。

また、新たに朝市のチラシを作成したことに加え、朝市終了後に、市場内関係事業者に対してアンケートを行い、売上金額等を把握したほか、「広報みと」や市ホームページに加えて、月刊誌など各種メディア等を活用した広報活動の充実策について協議を進めている。

社会科教育の中でのイベントの活用の検討については、イベントの実施目的を明確化するとともに、子どもたちの魚離れに着眼し、食育の観点から魚食文化の普及促進を図ることができるよう、現在、学校への出前講座の実施について関係機関との調整を進めている。

このようなことから、改善目標は達成されていると判断し、評価は今

年度で終了とする。

④ チャレンジ・ザ・原始人事業

チャレンジ・ザ・原始人事業は、昨年度の評価を受け、イベント名称にちなんだ事業内容の再検討、高い専門性を持った指導者の育成を改善目標として掲げているところである。

事業内容については、不便な生活の中でたくましさを身に付けることを目的として、事業の本来の趣旨を踏まえた火起こしや沢歩きなどを実施し、自然体験が不足しがちな現代の子どもたちに、より自然の中での体験をする機会を提供した。また、体験活動が安全に実施できるよう、なたで薪を割る等の危険を伴う内容の見直しや、災害時を想定した火を使わない飯ごう炊さんの追加など、それぞれの活動の実施方法を再検討したほか、平成30年度から、NPO法人に業務を委託することとした。

高い専門性を持った指導者育成については、キャンプインストラクター、看護師、調理師等の資格をもつ方を講師として、水戸市少年自然の家において指導者を対象とした1泊2日の事前研修を実施した。併せて、今後の指導者確保につなげるため、市内の大学へ指導者募集を行い、応募のあった7人が研修に参加した。

このようなことから、改善目標は達成されていると判断し、評価は今年度で終了とする。

イ 3年目評価

① 農業祭

農業祭は、昨年度の評価を受け、分担金を含めた共通経費に係る費用負担について、産業祭実行委員会において協議、決定するなど、明

確化に努めることを改善目標として掲げているところである。

このため、今年度の産業祭実行委員会において、商工祭実行委員会及び農業祭実行委員会の分担金を含めた共通経費等の費用負担について協議を行い、平成30年度産業祭の負担割合が決定されたとのことである。

しかしながら、昨年度の評価では、市民に対して説明責任を果たす観点から、両委員会の費用負担の根拠の明確化が課題とされたところであるが、両者間の合意による決定のみで、根拠が明確になったものではない。そのため、出店者等の関係者はもちろんのこと、市民が理解できる形で、根拠の明確化を図るべきである。

このようなことから、更なる改善を進めることとし、次年度も引き続き評価を継続するものとする。

② 商工祭

商工祭は、昨年度の評価を受け、分担金を含めた共通経費に係る費用負担について、産業祭実行委員会において協議、決定するなど、明確化に努めることを改善目標として掲げているところである。

このため、今年度の産業祭実行委員会において、商工祭実行委員会及び農業祭実行委員会の分担金を含めた共通経費等の費用負担について協議を行い、平成30年度産業祭の負担割合が決定されたとのことである。

しかしながら、昨年度の評価では、市民に対して説明責任を果たす観点から、両委員会の費用負担の根拠の明確化が課題とされたところであるが、両者間の合意による決定のみで、根拠が明確になったものではない。そのため、出店者等の関係者はもちろんのこと、市民が理解できる形で、根拠の明確化を図るべきである。

このようなことから、更なる改善を進めることとし、次年度も引き続き

き評価を継続するものとする。

③ 水戸黄門まつり

水戸黄門まつりは、昨年度の評価を受け、客観的な観客数の測定や補助金の費用対効果の検証、新たな財源の確保について、事業内容のリニューアルをする中で、方策を整理することを改善目標として掲げているところである。

水戸黄門まつりのリニューアルについては、平成29年度に検討部会を設立し検討を進めたほか、外部有識者との意見交換、リニューアル案の一般募集を実施した。これらの意見を参考としつつ、本年11月を目途にリニューアル案を決定する予定である。

水戸黄門まつり会場においては、昨年度から、来場者に対し現状把握試験調査を実施し、県外来場者率や宿泊率等を把握した。また、新たな財源確保については、営業活動によって協賛金の増加を図ったところである。

このように、リニューアル案の決定を待たずして一定の改善がみられるものの、客観的な観客数の測定方法については、会場が広範囲であることや、盛り上がる会場や時間帯が開催年によって変わることなどの課題があることから、効率的な測定方法の検討が必要である。また、来場者へのアンケートの精度を上げることにより、経済効果を精査しながら、費用対効果の検証を行う必要がある。

さらに、市民参加型の祭りではなく、市外からも多くの観光客の入込が期待できる観光型の祭りとするためには、当該事業のメディアへの露出が少ない印象を受けるため、メディアへの営業活動や、SNS等を活用した更なる周知活動の強化についても取り組むべきである。

このようなことから、更なる改善を進めることとし、リニューアル案を踏まえた来年度の祭りの改善結果も確認する必要があるため、次年度も引き続き評価を継続するものとする。

ウ 6年目評価

① 斎場管理運営事務

斎場の管理運営事務については、昨年度の評価を受け、新斎場の整備により2施設体制になることを踏まえ、両施設の規模を精査していく中で、現斎場の民間活力活用の対象範囲を検討することを改善目標として掲げているところである。

現在、新斎場整備計画の策定を進めており、今年度中の策定を予定している。現斎場については、当該計画の策定後に民間活力活用の対象範囲の検討をすることとしている。

このようなことから、更なる改善を進めることとし、次年度も引き続き評価を継続するものとする。

エ 7年目評価

① 保育所管理運営事務

保育所の管理運営事務については、昨年度の評価を受け、平成30年2月の水戸市立幼稚園・保育所あり方検討会から市長への提言を踏まえ、ソフト・ハードの両面から待機児童解消を含めた保育所のあり方について方針を決定することを改善目標として掲げているところである。

待機児童については、昨年度に、民間保育所の整備等により定員を拡大した結果、今年度4月1日現在で30人となり、昨年度の114人と比

較して、大幅に減少させた。今年度も、小規模保育事業（待機児童の8割を占める、3歳未満児を受入）を8か所整備し、さらなる定員の拡大を図る予定である。

また、昨年度策定した「水戸市幼児教育振興基本計画（第2次）」及び水戸市立幼稚園・保育所あり方検討会の提言に基づき、適正規模・適正配置に係る方向性として、市立保育所のうち2か所の認定こども園への移行を予定しており、今年度中の庁内決定に向けて、関係課長会議等を実施しているところである。

このようなことから、改善目標は達成されていると判断し、評価は今年度で終了とする。

② 幼稚園管理運営事務

幼稚園の管理運営事務については、昨年度の評価を受け、平成30年2月の水戸市立幼稚園・保育所あり方検討会から市長への提言を踏まえ、認定こども園への移行も視野に含め、幼稚園のあり方について方針を決定することを改善目標として掲げているところである。

昨年度策定した「水戸市幼児教育振興基本計画（第2次）」及び水戸市立幼稚園・保育所あり方検討会の提言に基づき、適正規模・適正配置に係る方向性として、市立幼稚園のうち2園の認定こども園への移行を予定しており、今年度中の庁内決定に向けて、関係課長会議等を実施しているところである。

このようなことから、改善目標は達成されていると判断し、評価は今年度で終了とする。

なお、幼稚園の定員の充足率の低さは課題であることから、引き続き、預かり保育の拡充や給食の拡大など、幼稚園の魅力向上に向けた

取組を推進する必要がある。

4 評価を終えての意見

- (1) 行政評価調書の様式については、今回の新規評価テーマである「公の施設の利用状況」の評価に使用する上で、「行政コストの推移」の表や、必要性、有効性、効率性を判断するための評価項目に修正が必要な点が見受けられる。今後は、評価テーマに合わせた適正な評価様式となるよう、テーマの設定時に評価様式の見直しを行うべきである。

5 委員名簿（50音順）

委員長 _____

副委員長 _____

委員 _____

委員 _____

委員 _____